時・令和6年2月6日(火)

於・特許庁16階特別会議室＋WEB会議室

産業構造審議会

知的財産分科会商標制度小委員会

第36回商標審査基準ワーキンググループ議事録

目 次

1. 開 会	1
2. 商標審査基準改訂案について	2
3. 閉 会	6

1. 開 会

○根岸商標課長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから産業構造審議会知的財産分科会商標制度小委員会第36回商標審査基準ワーキンググループを開催いたします。

事務局を担当します商標課長の根岸でございます。委員の方々におかれましては、御多忙の中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

本ワーキンググループは8名の委員で構成されておりますところ、本日は江幡委員が御欠席となりますが、過半数を超える委員7名に御出席いただいております。

それでは、以降の議事進行につきましては、島並座長にお願いしたいと思います。島並座長、よろしくお願いたします。

○島並座長 それでは、本日の議題について御紹介いたします。本日の議題は、「商標審査基準改訂案について」でございます。

続きまして、事務局より配付資料の確認をお願いいたします。

○根岸商標課長 では、配付資料の確認をいたします。

配付資料は、議事次第・配付資料一覧、委員名簿、資料1として商標審査基準改訂案に対するパブリックコメントの結果及び御意見に対する考え方、資料2として商標審査基準改訂案、参考資料1として商標審査基準改訂案に対するパブリックコメントの結果について、参考資料2として関連条文。

以上となります。

○島並座長 では、議題に入る前に、事務局から事務運営の御説明をお願いいたします。

○根岸商標課長 本日は、座長である島並委員のみ対面で御出席、その他の委員の皆様におかれましては、オンラインで御出席されています。

オンラインにて御出席の委員の皆様につきましては、御発言希望がございましたらTeamsの手を挙げる機能を用いてお知らせいただくか、会話チャット欄に発言希望の旨を御記入ください。こちらで確認して指名いたしますので、発言いただく際にはマイクとカメラをオンにさせていただきますようお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、会議中に音声が聞こえないなど何かトラブルが発生しましたら随時チャット欄に御記入ください。係の者が対応いたします。

傍聴者の皆様におかれましては、常時マイクとカメラをオフにさせていただきようお願い

いたします。チャット欄も御利用なさらないようお願いいたします。

また、本会議を録音することは慎んでいただくようお願いいたします。後日、議事要旨、議事録は特許庁ホームページに掲載いたします。

○島並座長 ありがとうございます。

2. 商標審査基準改訂案について

○島並座長 それでは、これより議題に入ります。

議題は、「商標審査基準改訂案について」でございます。

事務局より御説明をお願いいたします。

○網谷商標審査基準室長 それでは、事務局より御説明いたします。

まず、資料について御紹介をいたします。

資料1です。これは、パブリックコメント及び特許庁内の意見取りを経まして、基準改訂案に反映すべきと考えられる内容について記載したものとなっております。

次に、資料2でございます。これは、資料1でお示しした改訂案の方向性や考え方を審査基準に当てはめ、新設される4条4項については改訂案のみ、その他のものは新旧対照表形式で表したものとなっております。

資料1及び資料2については、後ほど説明をいたします。

続きまして、参考資料1は、令和5年12月20日から令和6年1月24日までパブリックコメントを実施いたしました。その際の告知方法、実施方法及び結果を取りまとめたものとなっております。意見の提出数は6件、内訳は団体より3件、個人より3件、意見の総提出数は17件となりました。こちらにつきまして、パブリックコメントの実施主体は特許庁でございますので、御意見に対する考え方については、追って取りまとめをいたしまして、結果はウェブサイト上に公開するという形で御報告とさせていただきたいと思っております。いただいた御意見については、参考資料1（別紙）として取りまとめをいたしました。そして、御意見の中で、審査基準改訂案に直接関係するものについては、さきの資料1に反映いたしました。

最後に、参考資料2は、関連条文でございます。

こちらが本日の資料となっております。

それでは、資料1及び資料2について御説明いたします。

まず資料1、4条1項8号、整理番号1を御覧ください。資料2の該当ページは9ページ、2.(1)となります。御意見の概要でございます。まず、「『商標の使用をする商品又は役務の分野』の判断にあたっては」の箇所について及び文末の「役務等をも勘案して判断する」とした記載の表現について御指摘いただきました。この内容については、「判断にあたっては、～判断する」との表現は、他の箇所と平仄が合っていないのではないかという御指摘をいただきました。また、文中の「必ずしも」の用法について、通例と合っていないのではないかとの御指摘をいただきました。

続きまして、対応の方向性でございます。こちらは御指摘を踏まえまして、文末の「して判断」といった箇所については、その文言を削除しまして、「勘案する」といたしました。そして、文中の「必ずしも」の文言も削除いたしました。その結果を事務局提案欄にお示しのとおりとしたいと考えております。

内容でございます。2.(1)「『商標の使用をする商品又は役務の分野』について。「『商標の使用をする商品又は役務の分野』の判断にあたっては、人格権保護の見地から、当該商標の指定商品又は指定役務のみならず、当該他人と関連性を有する商品又は役務等をも勘案する」でございます。

続きまして、4条4項、整理番号2を御覧ください。

資料2の該当ページは、2ページに戻りまして、4.(2)となります。御意見の概要は、文中の「有無」の記載と文末の「おそれがない」の記載については、平仄が合っていないとの御指摘ございました。

対応の方向性でございます。この御指摘を踏まえまして、「『混同を生ずるおそれ』の有無は」の記載を「『混同を生ずるおそれがない』に該当するためには」と修正いたしました。その結果を事務局提案欄にお示しのとおりとしたいと考えております。

内容でございます。4.(2)「『混同を生ずるおそれがない』ことが求められる時点・期間」。「『混同を生ずるおそれがない』に該当するためには、査定時を基準として、査定時現在のみならず、将来にわたっても混同を生ずるおそれがないと判断できることを要する」といたしました。

これらが資料1及び資料2の説明となっております。パブリックコメントでいただきました御意見につきましては、基準に反映しなかったものも含めまして、こちらで取りまとめをして、この基準の改訂を公表する前に、その考え方をホームページでお示ししたいと考えております。

事務局からの説明は以上となります。ありがとうございました。

○島並座長 ありがとうございました。事務局から、パブリックコメントを踏まえて修正された基準案の御説明がございました。どの点からでも結構でございますので、御意見等ございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

2点、修正内容をお示しいただきましたが、いずれも表現上のものでもございまして、内容的な側面に関わるものはないものと存じます。特に委員の皆様からも御意見はございませんでしたので、本ワーキンググループとして本基準案について御了解をいただいたものとしてよろしいでしょうか。——ありがとうございます。

それでは、本議題につきましては、事務局提案のとおりまとめさせていただきます。

以上をもちまして、本日の議論を終了いたします。今後のスケジュール及び御挨拶を事務局よりお願いいたします。

○根岸商標課長 御審議いただきまして、ありがとうございました。御審議いただいた商標審査基準改訂案につきましては、事務局にて島並座長と御相談の上、庁内の所定の手続を経た上で早期に特許庁ホームページにて公表させていただきます。

また、事務局より本日は審査業務部長の山下に代わり、私から御挨拶申し上げます。

今年度は、コンセント制度の導入及び他人の氏名を含む商標の登録要件緩和と複数の論点がある中、昨年7月を皮切りに本ワーキンググループを6回にわたり開催し、御審議いただきました。委員の皆様から商標制度小委員会の報告書を踏まえた制度利用に関する御意見など様々な角度からの貴重な御意見をいただきつつ、議論を進めることができました。

また、団体から代表としておいでいただいた委員の皆様には、関係団体へのフィードバックや団体内での意見の御調整についても大変御尽力いただいたものと存じます。併せて感謝申し上げます。

本ワーキンググループでの御審議に加え、1か月のパブリックコメントを経まして、商標審査基準改訂案を取りまとめることができました。改訂した商標審査基準については、4月1日から適用することとしておりますが、特許庁ホームページ内の特設サイト等を通じたユーザーの方々に対する周知及び的確な審査についてもしっかりと取り組んでまいりたいと考えます。

島並座長をはじめ、委員の皆様には熱心な御議論を重ねていただき、改めまして厚く御

礼申し上げます。ありがとうございました。

以上をもちまして、私からの挨拶とさせていただきます。

最後に、本ワーキンググループを仕切っていただきました島並座長から一言お願いできますでしょうか。

○島並座長 令和5年商標法改正を受けました審査基準改訂の作業は、昨年7月12日の初回から6回のワーキンググループを経て、本日無事終了となります。熱心な御議論をいただいた各委員の皆様及びフロントに立って御説明をいただいた網谷商標審査基準室長をはじめ、特許庁事務局の皆様方、誠にありがとうございました。

また、対面またはオンラインで傍聴いただいた皆様並びに貴重なパブリックコメントをお寄せいただいた方々にもこの場を借りて御礼を申し上げます。

令和5年の商標法改正は、先ほども御説明がありましたとおり、いわゆるコンセント制度の新たな導入と他人の氏名を含む商標の登録要件緩和という長年の実務的要望を受けたものでございました。

6回のワーキンググループ会合を振り返りますと、特にユーザーサイドの各団体を代表する委員の皆様と実際に審査を執行するお立場の特許庁との間で座長として御意見をどのように調整するか悩ましい局面もございました。ただ、改正法に審査基準という魂を吹き込み、ユーザーにとって使いやすい生きた制度にするという1点において、皆様のお気持ちは立場を超えて一致していたように思います。

各界のプロフェッショナルとして私心のない御協力をいただいたおかげをもちまして、不慣れな座長ではありましたが、大変スムーズに、そして気持ちよく議事運営を進めることができましたことを改めて感謝申し上げます。

また、一研究者といたしましても、需要者や氏名主体といった制度を直接利用する事業者とは異なる主体の利益を審査段階でどのように取り込むかという、産業財産権制度全体につながる大きなテーマについて改めて深く考える貴重な機会を頂戴したように思います。

ともあれ、本審査基準は、これから便覧等によってさらに具体的な運用指針が明確化され、また、基準自体も今後の運用を受けて不断に見直されるものと存じます。生まれたての審査基準が愛され、無事に成長していくことを祈りつつ、私からの御挨拶とさせていただきます。

それでは、以上をもちまして、産業構造審議会知的財産分科会商標制度小委員会第36回商標審査基準ワーキンググループを閉会させていただきます。本日はありがとうございました。

した。

3. 閉 会